

# 公立高後期に1万8024人

県内公立高校の後期選抜入試が28日、全日制130校と定時制17校で行われ、受験生1万8024人が臨んだ。

学力試験は、国語、数学、英語、理科、社会の順（一部学校を除く）で行われた。その後各校で面接などが実施された。

県教委によると、全日制は募集定員1万2627人に対し、受験者は1万7662人で、倍率は1.40倍。定時制は募集定員744人



試験に臨む受験生ら（28日、県立千葉高校で）

## 公立高入試問題と正解別刷り特集面に掲載

県教委は、後期選抜入試の出題方針を発表した。出題は昨年同様、基礎力を試すとともに、思考力や判断力、表現力を問うことにも重点を置いた。平均点は、国語、数学、英語、理科、社会の全科で50〜55点前後と想定している。

国語は理解力や表現力を試した。聞き取りでは、これまですべてのやり取りを終えてから問いに答える形式だったが、今回

## 思考力や判断力も重視

場面を想定した問題では、正方形の紙を使って一部を重ねながら並べたときに、複数枚の紙が重なる部分の面積などを求めさせた。

英語は、聞く、話す、読む、図表を多用した。

バランス良く出題した。社会は地理、歴史、公民から幅広く出題した。本県に関する総合問題では、伝統的工芸品をテーマにした。例年と同様に、

## 数学問題に誤字解答に影響なし

県教委は28日、後期選抜入試の数学の問題文に誤字があったと発表した。誤字は数学の大問4（1）の問題文で、「符号」と書くべきところを「符合」と書いていた。解答に影響はないという。

# 旧家で発見 高砂人形公開

館山「小谷家」江戸後期の作か



高砂人形を手にする小谷福哲さんと由喜枝さん。後ろは一緒に公開される内裏びな

館山市布良の市指定有形文化財「小谷家」で江戸時代後期の作とみられる高砂人形が見つかり、1〜3日、一般公開される。現当主の小谷福哲さん（63）は「古い家と古い人形ならではのたずまいを楽しんでほしい」と来場を呼びかける。

小谷家は代々マグロはえ縄漁の船主を務めるなど集落の指導的役割を果たした名家。現在の母屋は1889年（明治22年）の大火後に建てられたもので、1904年（同37年）には、洋画家・青木繁が同家に滞在し、名作「海の幸」（国重要文化財）を描いたことで知られる。市は2009年に「保存状態のいい明治期の貴重な建造物」として文化財に指定した。

今年、小谷家の改修工事が行われるのを前に、地元NPO法人・安房文化遺産フォーラムが一般公開を企画。古いひな人形を飾ろうというアイデアに、福哲さんの妻由喜枝さん（59）が納戸に古い人形があったことを思い出し、今年1月下旬、小さな木箱に入った高砂人形が見つかった。木箱の裏には「久次郎 げん」とあり、福哲さんが過去帳などで調べた結果、6代前の当主の妻で、明治初めの1870年に98歳で亡くなった「げん」に行き着いた。福哲さんは「げんの亡くなった年齢などを考えれば、人形は江戸後期の作ではないか」としている。別の古びた木箱の中には4対の内裏びなも見つかり、一緒に公開することにした。

由喜枝さんは「人形が狭いところから出たがっていたのでしょ」と感慨深げだ。公開は午前10時半〜午後3時半。無料。問い合わせは、同フォーラム・池田恵美子さん（090・6479・3498）。

高齢者叙勲（3月1日） 瑞宝双光章 金親清一氏（元佐原市立東大戸小学校長） 香取市玉造▽瑞宝双光章 高山真木氏（元市川市立平田小学校長） 千葉市中央区汐見丘町▽瑞宝双光章 宗政秀治氏